



九州大学伊都キャンパスで新種のハチを発見

概要

大学院比較社会文化学府修士課程2年の井手竜也(いで たつや)、大学院システム生命科学府博士課程一貫制4年の和智仲是(わち なかただ)および大学院比較社会文化研究院教授の阿部芳久(あべ よしひさ)の3名の共同研究グループは、伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンに生息するタマバチの1種が新種であることを、発見しました。本研究成果は、アメリカ昆虫学会誌の最新号(2010年11月発行)で発表されました。

背景

タマバチの大部分の種は、コナラ属の植物に虫こぶを作ります。伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンにはアラカシなどコナラ属の植物が豊富にあるため、アジア地域の生物多様性の解明・保全の一環として、阿部教授らは昨年度から同キャンパスのタマバチ相の調査を続けてきました。

※注：虫こぶとは、昆虫の刺激によって植物体の一部が膨らんだ構造

内容

伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンで、アラカシに虫こぶを作るタマバチの1種について調べたところ、日本未記録属の新種であることがわかりました。コナラ属の植物は、アジア、ヨーロッパ、アメリカに分布し、大半が落葉性の**コナラ亜属**と、アジアのみに分布し常緑性の**アカガシ亜属**に大別され、アラカシは**アカガシ亜属**に分類されます。今までに世界で約1,000種のタマバチがコナラ属の植物に虫こぶを作ることが知られていますが、すべて**コナラ亜属**にのみ虫こぶを作っていて、**アカガシ亜属**を寄主にするタマバチの記載・命名は、この新種が世界で初めてです。

新種のタマバチは、学名：*Plagiotrochus masudai*、和名：マスダアラカシタマバチと命名されました。本種はアラカシが分布する本州と四国にも生息するようですが、新種の動物を記載・命名する際に指定されるホロタイプ(holotype)と呼ばれる世界で唯一の標本には、伊都キャンパスで採集された個体が採用されました。このホロタイプは大学院比較社会文化研究院生物多様性講座に保管されています。

※注：コナラ属 { **コナラ亜属** (既知1,000種のタマバチが虫こぶを作っていた植物。)

{ **アカガシ亜属** (アラカシ含む。今回発見された新種のタマバチが虫こぶをつくっていた植物。)

効果

- 1) タマバチの新種の発見により、伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンの自然環境は学術的に貴重であることが確認されました。
- 2) 今回の新種の発見に刺激を受け、今後、アカガシ亜属を寄主にするタマバチがアジアの各地で発見されることが期待されます。
- 3) 今回のような分類学的研究は、保全すべき対象となる生物の単位を明確にすることにより、生物多様性の保全に貢献しています。

今後の展開

今後も阿部教授らは、伊都キャンパスを中心に国内外のタマバチ相を調べ、アジア地域の生物多様性の解明・保全に寄与することが期待されます。

著者・論文題目・掲載誌

Ide, T., Wachi, N. and Y. Abe (2010) Discovery of a new *Plagiotrochus* species (Hymenoptera: Cynipidae) inducing galls on the evergreen oak in Japan. *Annals of the Entomological Society of America* **103**: 838-843.

■新種のタマバチの写真



マスダアラカシタマバチ *Plagiotrochus masudai* Ide, Wachi and Abe の雌成虫 (単性世代).
九州大学伊都キャンパス産. 前翅長は約 2.5 mm. 井手竜也撮影.

【お問い合わせ】

大学院比較社会文化研究院教授 阿部 芳久

電話 : 092-802-5648

FAX : 092-802-5648

Mail : y_abe@scs.kyushu-u.ac.jp

九州大学は2011年に100周年を迎えます



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く